

(55) 栃木県塩谷町の丸山(まるやま)鉱山跡一追記

6年ぶりに現地を再訪した。やはり、GPSのガーミンによるより正確な経路ログの取得と、現地の現状確認が主目的であった。若干予想していたことでもあったが、既報の現地付近に新たに幾つかの坑口跡が確認できた。また、「旧道」付近の森林中に「通道坑」らしい箇所も確認できた。丸山鉱山は、山「丸山」の東斜面全面に広がっていた鉱山であることが確認できた。ズリは至る所にあるが、それなりの標本を見つけるには岩力と根気が必要であろう。

本追記は既報に付加する報告であるので、既報を読了しておくことを勧める。

2021年1月



図1 461号線を玉生のA点の所で、尚仁沢に向かって北上して行く。中央上の赤丸が鉱山跡。

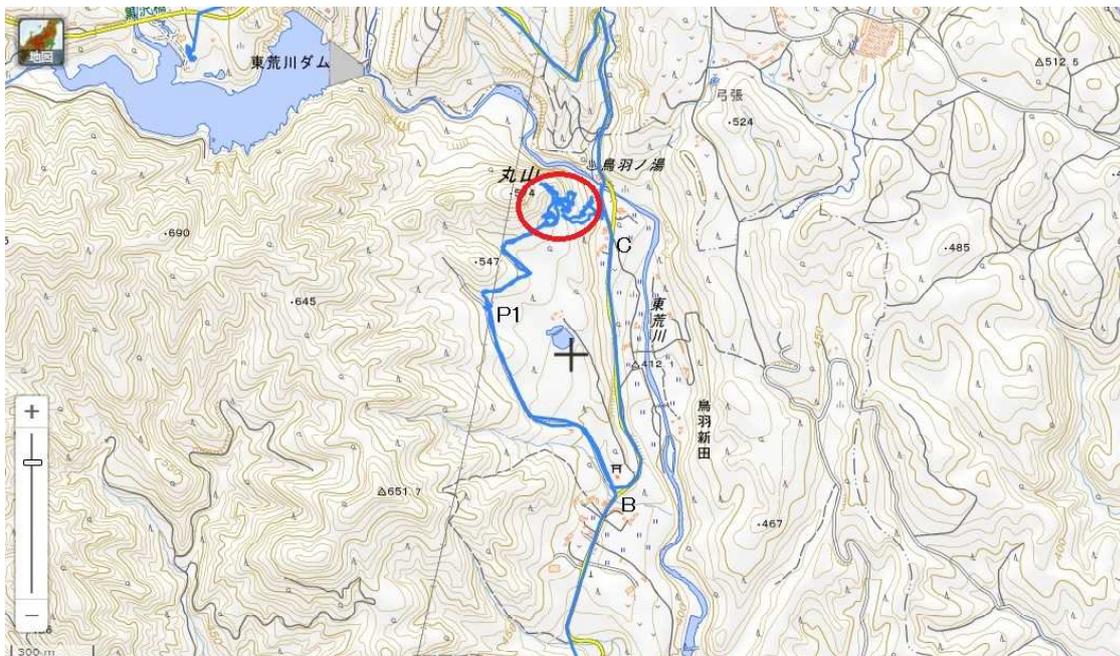


図2 図1の部分拡大図。結果論であるが、現地へのアクセスとしては2経路がある。尚仁沢に向かって北上して来たB点で左折して林道に入る経路。これは既報で紹介していた経路である。もう1つは今回確認した経路である。B点で左折することなく直進し、C点で、「旧道」に入り、そこから「丸山」に向かって登り上がる経路である。

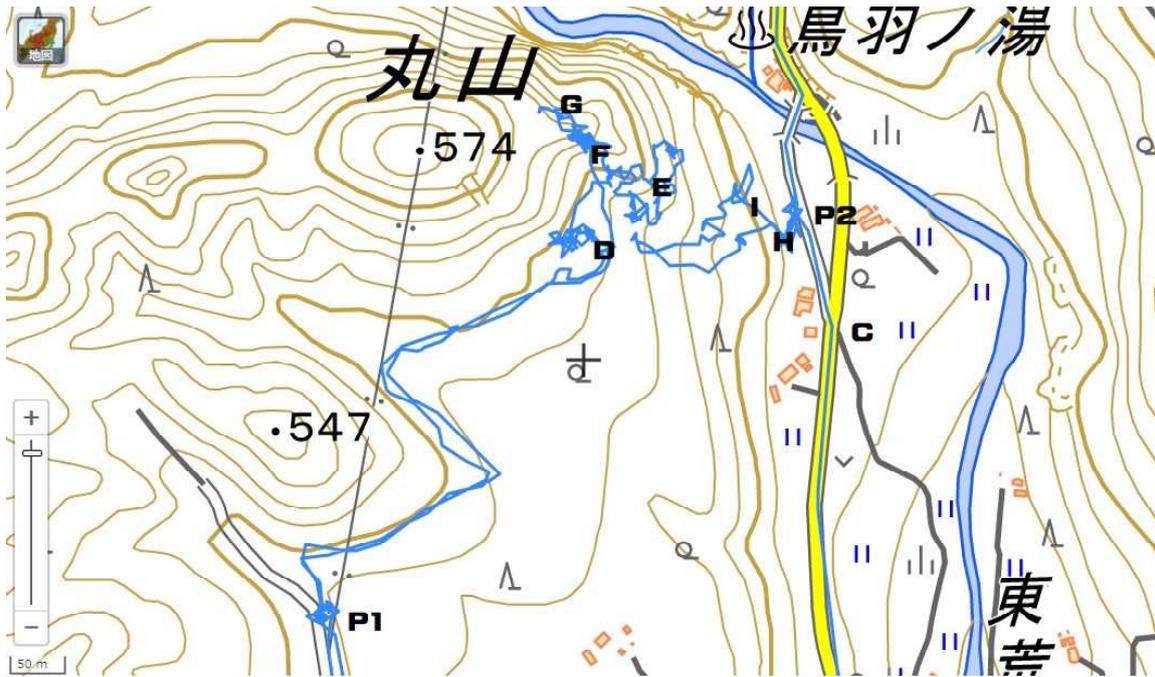


図3 図2の部分拡大図。P1が林道中の駐車地点。送電線のほぼ真下である。そこから徒歩で、消えかかっている林道をほぼ水平に進み、D→E→F→Gへと進んだ。車がP1にあるのでそこに戻り、車でC点に向かった。C点で左側に残っている「旧道」に入ると、直ぐ先に適当な広さの平地がある。P2点である。そこに駐車し、丸山の東斜面へ登り上がっていく。H→I→Eと進んで戻った。結果であるが、最初からP2点から丸山の東側斜面を歩き回る方が良くかも。

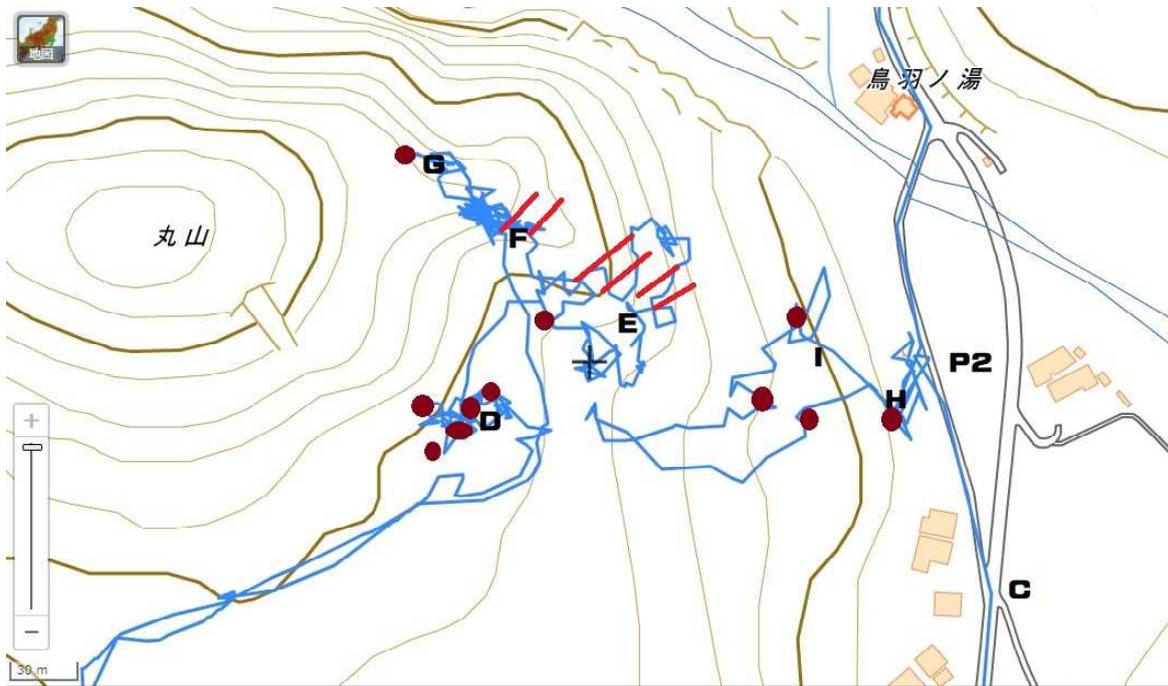


図4 図3の部分拡大図。多数ある坑口跡、露天掘り跡をより詳細に示すためである。茶色丸が坑口跡及びそれらしい跡、赤線分が大雑把な露天掘り跡である。多数ある。H及びI付近の坑口跡は通洞坑跡と思われる。図中に「鳥羽の湯」がある。探査後の疲れをとるのに最適であろう。昔は開館営業していたようであるが、現在は残念ながら廃業しているようである。

鉾山跡写真



写真1 D点付近の坑口跡の一つ。



写真2 同じくD点付近にあった坑口跡の一つ



写真3 写真2で示した坑口の入口から内部を覗いた様子。



写真4 P1点で山側を見る。前方がH、I地域である。野獣防護柵が巡らされている。入口の扉は開けたならば必ず占めること。



写真5 H, I 付近にあった「通道坑跡」と思われる箇所。両側に綺麗に石垣が残っている。



写真6 同じ付近にあった坑口跡らしい凹部の箇所。



写真7 同じ付近で少し上部にあった露天掘り跡も残している坑口跡。

E、F、G 付近の坑口跡、露天掘り跡の様子を示す写真などについては、昔とほぼ変わっていないので、既報に譲る。

(55) 栃木県塩谷町の丸山(まるやま) 鉱山跡

栃木県塩谷地区にある。金銀鉱床に属している鉱山であった。参考文献(1)によれば、「基底の地質は花崗岩で、これを石英斑岩が貫いている。・・・鉱床は多数の含金石英脈・・・。」

数年前に既に探査をしていた鉱山跡であった。めぼしい標本を採集できておらず、レポートにまとめることも忘れていた鉱山であった。記憶も薄れていたもので、再探査を行い、レポートにまとめることにした。なを、レポートにまとめ切れていない探査した鉱山跡は多数ある。探査の結果が不十分な場合である。どうか結果を出して、レポートにまとめ上げたいものである。

この鉱山跡には、露頭であった含金石英脈を掘り込んだ多数の露天掘りが幾筋に渡って広がっている。露天掘り跡を観察することができる。一見の価値がある。一帯、石英斑岩のズリであるが、今回もめぼしい標本は採集できなかった。時間をかけてじっくり探せば、良い標本を採集することができると思うが。現地は図1の中心当たりの「丸山」の文字がある所である。

余談：この「丸山」は標高574mの小山の名称なのであろうか？他に沢山の標高の高い山があるが、どれ一つとして、名称が冠されていない。何故、「丸山」だけなのか？「丸山」に関しての特別な理由があったのであろうか？

現地への経路は次の通りである。塩谷町の中心から62号を東荒川ダム、尚仁沢を目指して北上する。鳥羽新田地区にある「ほうきね」神社の少し手前で、沢に沿った左側にある林道に入って行く。これ以降の経路は、後掲している写真とその説明文を読むこと。徒歩となるルートは、ほぼ等高線に沿っており、ゆったりとした少し消えかかっている林道である。現地の近傍で少し登りとなるが。現地には多数の露天掘り跡があるので、滑落・落下などには十分注意すること。また、現地から下を見ると木々の中に、62号の道路や、鳥羽の湯の民家が見える。

訪問後、東荒川ダム湖の北沿いにある親水公園へ行くことを勧める。ここで、日本の百名水の一つである尚仁沢から導水した「尚仁沢の水」を蛇口から頂ける。前もって大きなポリタンクなどを持参しておけば申し分ない。これで、お茶を点てたら、おいしいであろう。茶葉にもよろうが。

時間的余裕があれば、尚仁沢の湧水地に行くのもよいであろう。遊歩道が整備され、往復1時間程度のものである。詳しくは、それなりの案内本を参照すること。その場合には、前もって余裕を持ったスケジュールを立てておくこと。

2010年3月、2015年3月

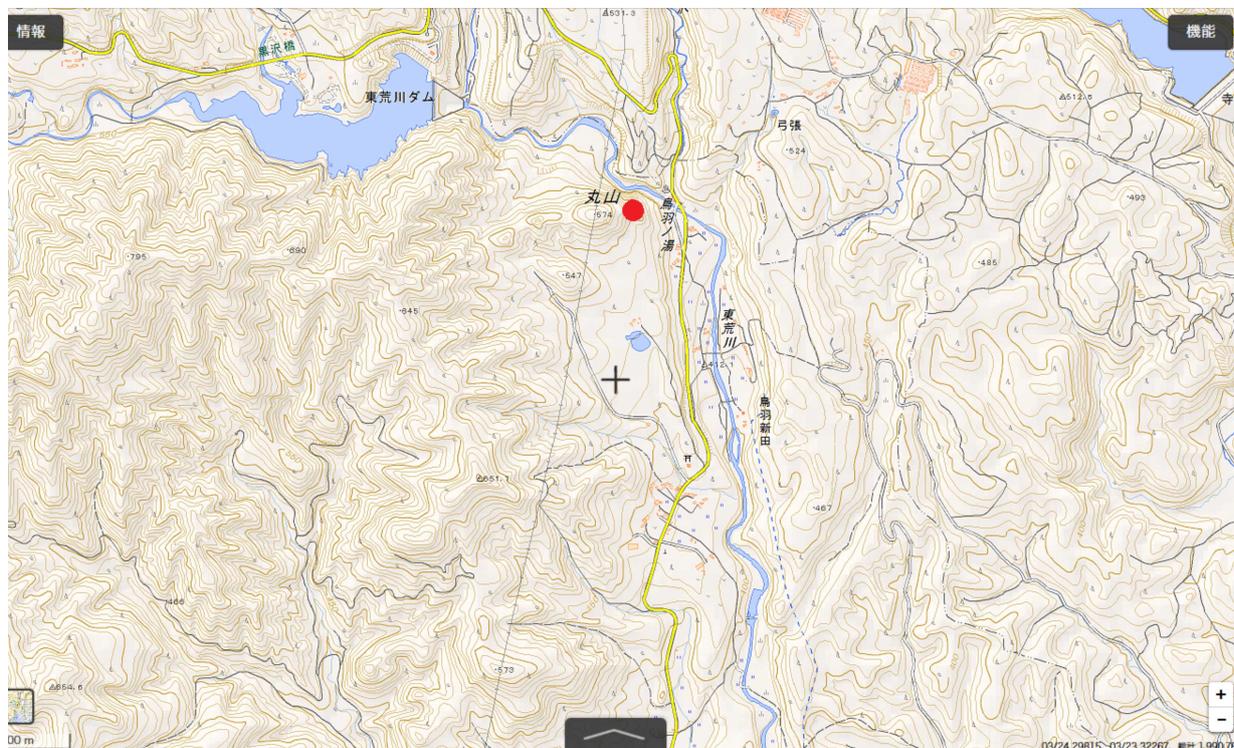


図1 国土地理院の地図サービスより複写掲載。赤丸が現地。神社記号の左隣にある林道を北北西方向に登り上がっていく。



図2 図1の部分拡大図。林道を登ってくる。送電線が真上に見える当たりに、主林道から分岐した鉾山跡への枝林道がある。そして、その付近には適当な広さがあるので、車を置ける。黒線で、少し消えかかっている比較的幅広の林道を書き加えている。等高線に沿った林道なので、なだらかである。現地まで徒歩で20分程度か。現地近傍では、林道からズレ、杉林の中を、尾根に向かって少し登り上がることになる。尾根付近一帯に露天掘り跡が多数ある。赤線分で大凡を示している。尾根部分に尾根を切り開いて作った「道」のようなところがあり、その先に坑口があった。黄緑丸。

鉾山跡写真



写真1 塩谷町中心部から、東荒川ダム、尚仁沢を目指して、63号を北上してくる。上寺島地区を過ぎ、2km弱の所で道路の左側に神社がある。この神社は、図1の地形図に記号で記されている。この神社の少し手前の道路東側の様子である。鉾山跡への林道入口である。目前に見えている2つの道の内の、沢側に沿った林道に入っていく。正面の道は民家への道である。



写真2 林道を登ってきた。この当たりの頭上には送電線が伸びている。図1、図2からわかる。この当たりの適当な所に駐車しよう。現地へはここから徒歩20分ぐらい。主林道から分岐した、鉾山跡への枝林道が写真中央先に、杉林の中を延びている。



写真3 鉋山跡の様子。右上から左下へと幅1 m以上の堀切跡が見える。沢山ある露頭鉋脈に沿っての露天掘り跡の一つ。この当たり切り捨ての杉が沢山ある。



写真4 露天掘り跡の1つ。写真中央部が堀切の跡。



写真5 縦坑跡？それとも露天掘り跡が崩壊してできた穴？



写真6 1箇所だけ坑口跡を見つけた。写真中央の黒い穴は坑口跡。右下は地形図ではわからない急峻な崖となっている。注意すること。この坑口左右にも、露天掘りのような堀切跡があった。



写真7 上の写真で示した坑口の内部の様子。

採集鉱物写真

それほどでもないので未掲載。時間をかけて、観察すれば、よい標本は採集できると思う。

参考文献

(1)「日本地方鉱床誌 関東地方」、今井、河井、宮沢、朝倉書店、1973年。